

基準7 施設・設備及び学生支援

	優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
平成24年度	<p>◎ 附属図書館では、大学院生、教職員、及び研究室に配属後の学部生と利用申請のある研究員については、自動貸出装置と入退館システムを設置し、24時間利用を可能としている。(長岡)</p> <p>○ 留学生の生活支援に関しては、国際連携センターが対応しているほか、チューター等がきめ細かく支援を行っている。また、地元の人々との交流を図り、留学生が順調に生活できるよう適切な配慮がなされている。(長岡)</p>		
	<p>◎ 大学の環境・学生のニーズに対応して、当該大学の学生、教職員には、安全保持の体制を確保した上で、附属図書館の24時間開館を実施している。(豊橋)</p> <p>○ 留学生に対する修学上、生活上の相談体制が充実し、異文化理解を進めることで、国際化の一層の推進を図っている。(豊橋)</p> <p>◎ 課外活動の支援に当たっては、課外活動活性化経費配分や顧問教員による支援及びテスト運用・組立作業等の専用の活動場所を確保するなどの適切な支援を行っている。(豊橋)</p>		
	<p>◎ 学生による自主的な研究活動を支援することを目的に、「e-Project@kyokyo」を実施し、教員と学生による審査委員会を設け、優秀な成果を上げたプロジェクトを表彰している。(京都教育)</p>		
	<p>◎ 科目等履修生として単位を修得後に、正規の学生として入学した学生について、既修得単位に応じて授業料を免除・減額するA I I T単位バンク制度を実施している。(産業技術)</p>		
平成25年度	<p>◎ 授業欠席状況把握制度を導入し、各学年の必修科目を中心に定めた1科目以上のモニター科目を一定回数連続して欠席した学生について、コース長、教育システム委員会委員及び学生サポート委員会委員が情報を共有し、面談等を通して状況の把握、修学指導を行っている。(室蘭工)</p>		
	<p>◎ 寒冷地としての特性に配慮して、24時間利用可能な自主学習環境を整備している。(北見工)</p> <p>○ クラス担任制、個別担任制、オフィスアワー等により、教員と学生との接触が多く行われている。(北見工)</p>		
	<p>◎ 「学修支援室(ラーニング・サポート・ルーム)」の設置をはじめ、「学生何でも相談室」や「ピア・サポート相談室」等、学生の学習支援や生活支援のための手厚い相談体制をとっている。(岩手)</p> <p>○ 学生による自主的な課外活動として、独創的な課題探求を行う「Let'sびぎんプロジェクト」を平成17年度より継続実施し、1件50万円の範囲内で年間10件程度の事業に予算を措置して支援を行っている。(岩手)</p> <p>◎ 身体や発達障害等の障害のある学生のための学生特別支援室を設置し、学生それぞれの障害に応じたきめ細かな支援を行っている。(岩手)</p> <p>◎ 東日本大震災に関連した学生の自主的な活動を促進するための支援や被災した学生への経済的な支援等を実施している。(岩手)</p>		
		○ ICTによる教育環境が整備されており、更なる活用が期待される。(秋田)	
	<p>◎ 学習サポート制度、アドバイザー制度及びGPA制度の3つの柱で構成されている「YUサポーティングシステム」により、アドバイザー教員が中心となって機能的に学生への支援・助言を行っている。(山形)</p>		
	<p>◎ 学習相談デスクには多言語コンシェルジュとして大学院生が配置されて体制が整えられている。(東京外語)</p> <p>◎ 独自財源による多様な奨学金制度が準備されている。特に、経済状況の悪化によって履修が困難になった学生に対する援助が様々な形で行われている。(東京外語)</p>		
	<p>○ 女性未来育成機構を設置し、大学院女子学生が先輩の立場から、主に学部女子学生の学生生活に関する相談にのる学生相談員制度を設けている。(東京農工)</p>		
	<p>○ 平成19年度に文部科学省学生支援GPに採択された「個性の自立を《補い》《高める》学生支援」プロジェクト終了後も、臨床心理士の資格を有する多くの学生相談コーディネーターを継続して雇用し、学生相談センターにおいて、障害を有する学生を含めたすべての学生、教職員及び保護者からの相談に対応している。(信州)</p> <p>◎ 独自に奨学金受給制度を設け、多くの外国人留学生に支援を行っている。(信州)</p>		
	<p>◎ 原則的に水曜日の午後に講義、実習を配置せず、課外活動時間を確保している。(岐阜)</p>	○ 学習支援に関して、(AIMS-G i f u(教育支援システム))、Webシラバス等が整備されており、自宅等学外からもアクセスして学べる環境を整備しているが、より多くの教員が活用することが期待される。(岐阜)	
	<p>○ 図書館の一部に24時間利用できる自習スペースが設けられており活用されている。(京都)</p>		

基準7 施設・設備及び学生支援

	優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
	<p>◎ 障がい学生支援委員会を立ち上げ、障がい学生修学支援ルームを設置して、障がい学生修学支援ルーム設置要項に業務等を明示し、障害学生の支援、環境整備等のサポート強化を図っている。(大阪教育)</p> <p>◎ 学生チャレンジプロジェクト制度を設け、平成18年度から実施しており、自主的、創造的に企画されたプロジェクトに対し、学生支援実施委員会において審査の上、年間7件程度の財政的な支援を行っている。(大阪教育)</p>		
	<p>◎ 学生が集い大学の中心となる図書館を目指した改革を進め、ラーニング・コモンズ、メディアルーム、グループ学習室、レファレンスコーナー、自習・研究コーナーを設置し、前年度と比較して約20%増の入館者を得ている。(和歌山)</p> <p>◎ 保健管理センターでは、学生の健康面での相談・助言に向けて、精神科医、保健師、看護師、PSW、臨床心理士による「キャンパス・デイケア」を実施している。特に、心の病や学生生活の不適合により修学に支障をきたしている学生に対しては、これを体験克服した学生グループ「アミーゴの会」のピアサポートプログラム「ひきこもり回復支援プログラム」等、メンタルサポートシステムを構築し、復帰のための総合的な支援を行っている。(和歌山)</p>		
	<p>◎ 創成学習開発センターやuラーニングセンターが、情報化推進センター及び評価情報分析センターと協力し、工学部のuキャンパス構想のサポート、e-learningの確立、普及、ポータルサイトの提供、履修登録システムの提供のほか、教育研究者用データベース等のサービスを提供し、当該大学のICTを利用した「教育と学習に優しい環境」の基盤機能を果たしている。(徳島)</p>		
	<p>○ 学生サービスの向上のための敷地内に点在していた窓口を集約し、あわせて講義の空き時間に利用しやすい多目的スペース、交流スペースを拡充するために、総合学生支援棟を新築し、平成26年4月に開設することとしている。(鳴門教育)</p> <p>◎ 児童図書室を設け、学生ボランティアが中心となって季節行事や、絵本の読み聞かせなど、子育て支援や地域貢献活動に取り組み、活動が評価されて第42回「学校図書館賞奨励賞」(全国学校図書館協議会)を平成24年度に受賞している。(鳴門教育)</p>		
	<p>◎ 附属図書館は24時間365日開館しており、夜間利用者が利用者全体の22%を占めている。(北陸先端)</p> <p>○ 入学から修了までの学修状況について、目的・目標、修得科目、主テーマ研究及び副テーマ研究、学外研修や奨学金受給状況、指導教員との対話履歴等を記録させる学修計画・記録書を導入している。(北陸先端)</p> <p>◎ 博士後期課程の学生が相談員を務める「なんでも相談室」を設置し、学生の視点からの相談体制を整備しているほか、東京サテライトの社会人学生を対象にした「出張学生相談室」を設置し、保健管理センターの教員が東京サテライトに出向き、直接、学生の相談に対応している。(北陸先端)</p> <p>◎ 大学独自の給付奨学制度や雇用型支援制度のほか、学外研修助成制度、キャリア形成活動支援制度等の多様な経済的支援を行っている。また、協働教育等奨学金、外国人留学生職業指導助成金制度等、留学生を対象とした経済的支援を行っている。(北陸先端)</p>		
			<p>◎ 附属図書館の空調機器が老朽化している。また、看護系の図書が全般的に古く、開学時の目標である「平成20年までに10万冊を整備する計画」が大幅に遅れている。(沖縄県立看護)</p> <p>○ 規程の整備、ハラスメント相談員の配置、学生への周知は行われているものの、ハラスメント対策に対する学生の満足度は高いとはいえ、教職員の意識改革を含め、更なる努力が必要である。(沖縄県立看護)</p>
	<p>○ 沖縄県立芸術大学芸術振興財団奨学金を過去5年間で年間平均約15人が利用している。(沖縄県立芸術)</p>		<p>○ 教育研究活動を展開する上で必要なICT環境が十分に整備されていない。(沖縄県立芸術)</p> <p>○ 情報セキュリティポリシーが整備されていない。(沖縄県立芸術)</p> <p>○ 「学生満足度調査」では、「練習室を増やしてほしい」という学生の要望が少なくなく、ピアノの調律、機材故障への対応の遅さ等の指摘も散見される状況にあり、一部の専門分野については、自主的学習環境の整備が十分に行われていない。(沖縄県立芸術)</p>
<p>平成26年度</p>	<p>○ 学年担任及びグループ担任制をとることにより、学生に対しきめ細かな指導を行っている。(旭川医科)</p> <p>○ 当該大学独自の対象分野別、課程別に支給、貸与を含めてきめ細かい奨学金制度を設け、また、「学部学生海外活動助成制度」「学部学生海外留学助成制度」等によって、学部学生の国際化を推進する経済支援を実施している。(旭川医科)</p>		
	<p>◎ SLA(スチューデント・ラーニング・アドバイザー)制度を導入し、全学教育学習支援の一環として、学習相談から授業内における学習補助等を行っており、主に学部1、2年生を対象として、平成26年度には2,633人(平成26年11月現在)に対して幅広い学習サポートを行っている。(東北)</p> <p>◎ 東日本大震災の被災学生に対して入学料及び授業料の免除、独自の奨学金の創設や応急学生寄宿舎の設置等、支援策は充実している。(東北)</p> <p>○ 日本人学生と外国人留学生が日常的に交流することによって、国際感覚を身に付けるとともに異文化理解を深めることができるユニバーシティ・ハウスを設置し、国際化を牽引する人材の育成を目指している。(東北)</p>		

基準7 施設・設備及び学生支援

	優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
	<p>◎ キャンパスライフ活性化事業では、震災後の状況下において机上の学習では得られない体験や経験を通して、学生が自ら主体的に課題や問題を発見し、企画や構想力を育成させ、事業実施による問題解決力の育成や解決方法を学び、被害者の生活支援や地域復興活動を行うことにより、福島県を自分たちの力で元気づけようと地域を巻き込んだ地域活性化事業を展開し、地域に発信している。(福島)</p> <p>○ 同窓会の寄附金による給付型奨学金制度を設け、運用している。(福島)</p>		<p>○ キャンパス建物の耐震化改修を進めており、迅速な完了が望まれる。(福島)</p> <p>○ ハラスメントに関する相談体制が十分ではない。(福島)</p>
	<p>◎ 学生の自主的学習を支援する施設・設備として、大小様々な広さや静穏化の区別に配慮した学習室やエリア・スペースを附属図書館本館(アカデミック・リンク・センター)やアクティブ・ラーニングゾーンに整備している。(千葉)</p> <p>◎ 「イングリッシュ・ハウス」が開設され、学生のTOEIC等の試験対策講座やディスカッションの練習のほか、英語に親しむための様々なイベントも開催され、多くの学生に利用されている。(千葉)</p> <p>◎ 環境ISO 学生委員会が、主体的に環境・エネルギーマネジメントに関する活動を行い、平成23年3月には日本環境経営大賞の最優秀賞を受賞したほか、それらを含め、大学として、すべてのキャンパスでISO14001の認証を取得し、平成25年度に国立大学法人として初のISO50001の認証を取得している。(千葉)</p>		
	<p>◎ 保健管理センターにおいて専任の精神科医2人が精神医学に基づいたメンタルヘルス相談に当たり、専任及び準専任の心理カウンセラー3人が臨床心理学に基づいたカウンセリングに従事している。(東京工業)</p> <p>◎ 創立130周年を契機に、東京工業大学基金を創設して、基金及び基金の運用益は、奨学金、課外活動支援や「イノベーションを生み出す種の研究支援」等に重点的に活用している。奨学金は東京工業大学基金奨学金として独自の複数の奨学金を設置している。(東京工業)</p>		
	<p>◎ 就職支援・進路指導のための組織を充実させ、関連する業界との連携を強めることによって、効果的な学生支援の体制が構築されている。(東京海洋)</p>		
	<p>○ 大学独自の奨学金による長期・短期の派遣留学生数は、平成25年度に203人であり、充実した支援体制となっている。(一橋)</p> <p>○ 当該大学が独自に有する一橋大学基金は、学生の海外派遣を支援するための奨学金、外国人の当該大学への留学を支援するための奨学金、経済的に困窮している学生を支援するための奨学金、図書・データベース購入などの教育環境の整備、課外活動支援(グラウンドの改修、備品の整備など)その他の目的で有効に使用されている。(一橋)</p>		
	<p>○ コンタクト教員制度、なんでも相談室等により、学生が学業や健康面、経済面その他様々な悩みや相談事を気軽に相談できる体制がとられている。(横浜国立)</p>		
	<p>◎ 増築拡充された中央図書館のラーニング・コモンズにおいて、外国語の自主学習をサポートするFL-SALCコーナーでは、「英語学習カウンセリング」「英語・初修外国語チャット」などのさまざまな外国語学習プログラムの人的サポートを行っている。(新潟)</p> <p>◎ キャリアセンターにおける初年次からのキャリア意識形成支援、キャリアコンサルタントによる就職相談などを積極的に行い、就職率を高い水準に保っている。(新潟)</p>		
	<p>○ ICT活用指導力を身に付けた教員を養成するために、学生にノート型パソコンの所持を義務付け、授業で活用するとともに、情報メディア教育支援センターの演習室には端末を置かず、学生個人のパソコンを使用した演習が行えるように整備している。(上越教育)</p> <p>○ 学生のニーズに応じて休・祝日も図書館を開館しており、平成25年度の開館日数は350日であった。(上越教育)</p> <p>○ 「教育職員免許取得プログラム」受講者が支障なく受講できるように支援することを目的として、教育職員免許取得プログラム支援室を設置し、この支援室の下で、教育支援課、学生支援課及び就職支援室が連携して支援体制を作っている。(上越教育)</p> <p>○ 留学生への日本語支援としては、正規の授業とは別に、各留学生の日本語能力に応じた日本語の補講プログラムを週5コマ(平成25年度は計135コマ)実施している。(上越教育)</p> <p>◎ 子どもたちとのふれあいを通して子ども理解を深め、教員として必要な資質の基礎を習得することを目的に、「学びのひろば」を実施しており、平成25年度においては7回開催し、延べ1,550人の児童が参加している。(上越教育)</p> <p>○ 教員就職及び修学指導等の幅広い相談、指導に総合的に対応できる支援体制として、公立学校の校長経験者を「キャリアコーディネーター」として7人配置し、平成25年度においては、学部学生では延べ3,248人、大学院学生では延べ4,105人、既卒者では延べ247人に利用されている。(上越教育)</p> <p>○ 上越教育大学創立30周年記念事業寄附金を財源として、平成21年度から「上越教育大学くびきの奨学金」制度を新たに設けており、平成25年度においては、前期17人、後期16人に対し、支援を行っている。(上越教育)</p>		

基準7 施設・設備及び学生支援

	優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
	<p>◎ 学生の自主学習等のため時間外でも利用しやすいよう、キャンパス内の各建物はICカード付き学生証等で入室できるように管理されている。(金沢)</p> <p>◎ アカサポータル上に学習管理システムを整備し、学生間及び学生・教員間での議論や動画教材での事前指導等ができるように利便性を高め、学生の学習に役立っている。(金沢)</p> <p>◎ 平成22年度文部科学省「大学生の就業力育成支援事業」に採択された「社会的・職業的自立力を培う「金沢就業塾」」で開発したPBL型授業科目等の開発・改善を事業期間終了後も「中部圏における産学連携教育(インターンシップ)の推進と普及」等のプログラムに継続させ実施している。(金沢)</p> <p>◎ 平成19年度文部科学省学生支援GPに採択された「心と体の育成による成長支援プログラム―社会に幸せをもたらす生活の知恵を持った学生の育成―」で開発した講義群を共通教育特設プログラムとして発展させるとともに、学生支援プログラムとして継続して実施している。(金沢)</p>		
	<p>◎ 各学期の授業3回目以降頃に、授業への出席状況が芳しくない学生にクラス担任が直接面談を行い、欠席理由等事情を確認し、特に工学部では各学期終了時に修学状況が著しく振るわない学生に対して、成績不振注意、退学勧告等を行うことによって、学生が抱えている問題等を把握し、指導・助言・相談ができる体制としており、きめ細かな学生対応を行っている。(山梨)</p>		
	<p>◎ 課外活動について、施設整備、予算措置等の積極的な支援を行い、各種競技会で優秀な成果を上げている。(浜松医科)</p> <p>○ 大学独自の経済的援助(奨学金制度)を充実させている。(浜松医科)</p>	<p>○ 図書館を中心としたラーニング・コモンズ等自主学習施設が充実しており、24時間利用可能となっている。(浜松医科)</p>	
	<p>◎ 「名古屋大学キャンパス・サインマニュアル」を策定し、文書として学内共有を図り、同マニュアルに示された一貫した方針に従って、屋内、屋外のサインを多言語化するとともに、そのために必要な英語等による名称の統一表記を実現している。(名古屋)</p> <p>◎ 中央図書館内のラーニング・コモンズのエリアを利用し、学生相談コーナー(ピアサポース)、就職コーナーを設置しており、訪れやすい場所に学生支援サービスポイントを統合的に設置することによって、図書館の学習環境を通じた支援の円滑化を実現している。(名古屋)</p> <p>◎ 中央図書館においては、休日を含めて22時まで開館している。(名古屋)</p> <p>◎ 社会貢献人材育成本部ビジネス人材育成センターを設置し、博士後期課程修了生のキャリア支援を実効的に行っているとともに、その機能を他大学も利用可能とすることによって、非学術的な職種を含む博士の学位取得者のキャリアパスの多様化を推進、実現している。(名古屋)</p>		
	<p>◎ 「教育実習における学習指導案事例集」データベースを構築し、ウェブサイト上に「まなびネット」を設けて閲覧できるようにしている。(愛知教育)</p>		
	<p>◎ 附属図書館に隣接している環境・情報科学館において、ラーニングコモンズ(2階全面)が設置され、グループ学習エリア、PCステーション(20台)、グループ学習室、ソーシャル・エリア等を有し、学生の自習や少人数授業に利用されている。(三重)</p>		
	<p>○ 京都市右京区にあった学生宿舎「洛西寮」の代替施設として、留学生・他大学生混在型の「松ヶ崎学生館」を建設し、平成25年7月より入居を開始している。(京都工芸繊維)</p>		<p>◎ 学生生活実態調査を学部学生対象、大学院学生対象を隔年で交互に行い、学習面と生活面の実態調査を行っているが、設問は学生の意見、感想を典型的に選択させる内容のものが多く、必ずしも学生のニーズを適切に把握するものとなっていない。(京都工芸繊維)</p>
	<p>◎ 図書館ラーニングコモンズ(PAO)が整備され、学習環境が充実している。(兵庫教育)</p> <p>◎ 教職キャリア開発センターは、多様な経験を持つ職員を配置し、就職やキャリア形成、ボランティア活動等のための様々な相談を数多く受け付けるとともに、多数の行事を主催、実施し、特に卒業生の教員としてのキャリア形成支援を充実させている。(兵庫教育)</p> <p>○ 独自の奨学金・助成金制度として「現職教員のための研究助成金」、大学院学校教育研究科1年次生を対象とした「大学院同窓会研究助成金」、主に学部卒業生等を対象とした「Hyokyo嬉望奨学金」を設け、学生の研究及び生活を支援している。(兵庫教育)</p>		
	<p>○ 「神戸大学ラーニング・コモンズワーキンググループ報告書―学びの空間のリインベンション」を取りまとめ、平成25年度に人文科学系図書館に、平成26年度に社会科学系図書館にラーニング・コモンズを設置して、学生の動線や立地条件を踏まえたラーニング・コモンズを整備・運用している。(神戸)</p>		
	<p>○ 図書館において、学生と職員の協働によるビブリオバトル(参加者が本を持って集まり1人5分間で本を紹介し、最多票を集めた本を「チャンプ本」とする、「知的書評合戦」)等の特色ある取組を実施している。(鳥取)</p>		

基準7 施設・設備及び学生支援

優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
<p>◎ 平成25年度に開設されたソーシャルラーニングスペース「L-café（エル・カフェ）」は、授業時間外の外国語自主学习を促進させ、英語、中国語、韓国語、フランス語、ドイツ語及び日本語によるコミュニケーション力育成のための場として機能するとともに、留学生と日本人学生の交流を深める場としての役割を果たしている。（岡山）</p> <p>◎ 在学生が主導して毎年度実施している新入生履修相談会は、履修や単位取得等について、学生の目線で分かりやすい説明を受けることができる場として、各年度とも、新入生の大半が出席しており、新入生から高く評価されている。（岡山）</p>		
<p>◎ 平成16年度文部科学省の特色G Pに採択された、学生が自分たちの問題を自分たちで解決していく大学公認のボランティアスタッフであるS C Vは、現在も在学生や将来当該大学を目指す高校生の支援を行っており、S C Vの拠点「ピア@カフェ」が整備され、学生のミーティング場所として、また学生のための相談窓口として広く活用されている。（愛媛）</p>		
<p>◎ 平成24年度に四国の国立大学による連携事業「四国におけるe-Knowledgeを基盤とした大学間連携による大学教育の共同実施」（基幹校：香川大学）が文部科学省「国立大学改革強化推進事業」に採択され、大学内に分室を設置し、連携大学と共同して新たに導入したe-learning教育支援システムを活用し、ニーズ・シーズ調査の結果を基に自主的学習環境整備の充実を進めている。（高知）</p>		
<p>◎ 指導教員・助教・カウンセラーが情報交換を行いながら、卒業論文完成に至らせるなど、発達障害等の特別な支援が必要な学生に対する支援が充実している。（九州）</p> <p>◎ 九州大学基金による学生への各種助成事業、また、特に経済的困難を抱えながらも積極的に勉学を続けている博士課程学生に対する奨学金の増額等の独自の経済支援を拡充させている。（九州）</p>		
<p>◎ 学生が主体となって実現したい「夢」を毎年募集して「夢大賞」を選定し、夢の実現に向けた支援を行っていたが、平成26年度からは新たに「夢への架橋」チャレンジプロジェクトとしてニーズの掘り起こしを図っている。（長崎）</p> <p>◎ 入学時の健康診断において、新入生全員を対象に保健・医療推進センター所属のカウンセラーによるメンタルヘルス健診を実施している。（長崎）</p> <p>◎ 大学独自の資金による奨学金制度が充実している。（長崎）</p>	<p>○ 主体的学習促進支援システム（LACS）により、教員と学生の連絡、準備学習課題・復習課題の提示、課題遂行結果やレポートの提出などをオンラインで行うことを可能とし、履修登録、成績の入力管理、e-learningシステムの映像提供、出席管理等の機能も持たせている。またCALLシステムにより自主学习用のコンテンツを提供しており、LACS及びCALLによるe-learningシステムによる自主学习支援の向上が期待できる。（長崎）</p>	
<p>○ 図書館ウェブサイト充実させたサービスを提供して、学生が学習する上で必要な資料を得るための多面的なサポートを実現している。附属図書館の既存の部屋の改修により学生の自主的な学習活動を支援するための学びの場「ラーニングコモンズ」として平成24年度に整備し、学生の利用が増えている。また、「図書館長と学生（院生）との懇談会」を毎年実施し、学生ニーズを把握して対応を行っている。（宮崎）</p> <p>○ ボランティア支援室の設置、東日本大震災復興支援に係るボランティア活動経費の一部助成、「とっても元気！宮大チャレンジ・プログラム」等により、学生の主体的な活動を積極的に支援している。（宮崎）</p> <p>◎ 平成26年度からは、宮崎県及び保護者の居住地である市町村と協議し、肢体不自由学生の大学構内での修学支援のため介助員を配置し、その経費を大学が2分の1、県が4分の1、市町村が4分の1ずつ負担することとしている。（宮崎）</p> <p>◎ 平成23年度までは免除の額を全額免除と半額免除の2種類としていたが、平成24年度からは免除の額を全額免除、20万円免除、10万円免除の3種類とし、全額免除及び半額免除基準を満たした者全員を家計基準、成績基準で順位付けした上で、予算の範囲内でそれぞれ免除額を決定する方法に見直している。（宮崎）</p>		
<p>◎ 平成25年度に学生が自ら学び、対話し、成長する場として整備された、学習交流プラザ、学生サークル会館、学生会館の3つの建物から構成される複合施設が完成するなど自主的学習環境が十分に整備され、効果的に利用されている。（鹿児島）</p> <p>○ 学長が直接学生のニーズを把握するため、懇談会を開催し、授業内容や修学環境等に関する学生からの意見や要望を聞き、学生支援の充実に向けている。（鹿児島）</p> <p>○ 上級生が下級生の抱える問題等の解決をボランティアに支援するピア・サポート制度を設けている。（鹿児島）</p> <p>◎ 発達障害のある学生について相談、診療を中心に充実した対応をとっており、保健管理センターに防音室を設置して、発表のシミュレーションやプレゼンテーションの練習を行うことができるようにしたほか、「講義中継用テレビ会議システム」を導入して授業に出られない学生が講義を聴講することを可能にしている。（鹿児島）</p> <p>◎ 困難な課題に果敢に挑戦する「進取の精神」を実践し、学生意章の趣旨に即した活動実績や優秀な業績等を収めた学生及び学生団体を表彰する「鹿児島大学進取の精神学生表彰」を設立している。また、学生自らが企画・運営・実施する様々なプログラムの支援を通じて困難な課題に果敢に挑戦し、実践することによって進取の精神を継承していくことを目的とした「鹿児島大学進取の精神チャレンジプログラム」を創設している。（鹿児島）</p>		

基準7 施設・設備及び学生支援

	優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
	<p>◎ 体育大学として整備された施設、設備を正課の科目履修及び課外活動に有効に活用し、学習及び課外活動において優れた成果を上げている。(鹿屋体育)</p> <p>◎ 学生支援の理念を正式に定め、学生を含む構成員に周知を図ることにより、学習支援と生活支援とを総合的かつ効果的に実施する全学的な体制の整備の基本方針を明確にしている。(鹿屋体育)</p>		
	<p>○ バリアフリー化への配慮や安全・防犯面について、女子大学ということもあり手厚い措置がとられている。(大妻女子)</p> <p>◎ 希望する学生のほぼ全員が入寮できるよう、学生寮が整備されている。(大妻女子)</p>		◎ 図書館の閉館時間が、最終授業終了時間前又は終了と同時にとなっている。(大妻女子)
平成27年度	◎ 共用機器管理センターでは、同センターのほか触媒化学研究センター、電子科学研究所等の装置を一元的に登録、公表し、研究設備を学内外の研究者が利用できるオープンファシリティシステムを導入し、高度な研究設備を効率的に活用している。(北海道)		
	◎ 派遣交換留学生や短期海外派遣研修プログラム参加学生を対象に、奨学金を支給するとともに、留学に伴い卒業延期となった学生に対し、授業料の免除を実施している。(北海道教育)		
	<p>◎ 言語センター、教育開発センター等において、3つの新たな語学教育ツール①デジタルタスク、②双方向通信、③異文化ビジネス教育を構築して組み合わせた実践型Blended ラーニングを導入し、授業で使用する動画を撮影するためのレコーディングスタジオや、海外との双方向通信が可能な国際交流スタジオが整備され、活用されている。(小樽商科)</p> <p>○ 附属図書館を「滞在型の学生の主体的な学びの拠点」と位置付け、無線LANを全館で完備し、ラーニング・コモンズとしての利用を目的としたアクティブラーニング・エリアを整備するなど、学生の主体的、自主学習環境を整えている。(小樽商科)</p> <p>◎ すべてのゼミナールに専用のゼミナール室を配置し、さらに大学のネットワークに接続しているパソコンを備えるなど、グループでの自主学習の環境を整えている。(小樽商科)</p> <p>◎ 小樽科大学緑丘奨励金、グリーンヒル奨学金、後援会助成金による奨学金、佐藤幸子奨学金、佐野力奨学金と、大学独自の奨学金制度を数多く設けて学生生活を支援している。(小樽商科)</p> <p>○ 「小樽科大学グリーンヒルプロジェクト」を設けて地域社会における学生の自主的な活動を支援しているとともに、「リーダーズ・アセンブリー」において課外活動に伴うリスクについて講演会等を実施することにより、課外活動におけるリスクの回避・防止に努め、学生の課外活動が円滑に行われるよう支援している。(小樽商科)</p>		
	○ 教養教育を対象として、数学、物理、化学の基礎に係る学習相談の窓口である理系系質問室、及び「総合英語」の履修に係る相談や自主学習に係る相談の窓口である総合英語学習相談室を設置し、有効に活用されている。(茨城)		
	○ 自己資金や寄附金による大学独自の多様な奨学金制度を設け、学生に給付している。(宇都宮)		
	<p>◎ 入学した直後の学部学生が、1年間の特別休学期間を申請、取得した上で、ボランティア等の社会貢献活動、国際交流活動、インターンシップ等の長期にわたる自主的活動を通じて自らを成長させる自己教育プログラム「FLY Program」を平成25年度から開始している。(東京)</p> <p>◎ 学生を含む大学構成員の支援を行う学生相談ネットワーク本部を設置し、悩みや相談に対応できる体制をとっている。(東京)</p> <p>◎ 独自の奨学金制度による学生や外国人留学生への経済的支援をきめ細かく行っている。(東京)</p> <p>◎ 地方出身者や外国人留学生等のために国際学生宿舎やインターナショナルロッジを整備し、活用している。(東京)</p>		
	◎ 平成21年度文部科学省「大学教育・学生支援推進事業【テーマA】大学教育推進プログラム」において「コンピュータによる診療模擬実習の展開」が採択され、支援終了後も臨床現場に即した多種多様な経験ができるコンピュータシミュレーション教材を独自に作成し、教育に活用している。(東京医科歯科)		
		◎ 平成27年度から、履修登録状況を可視化した学習ポートフォリオシステムを本格的に導入し、クラス担当委員が学生と履修状況を共有の上、相談と指導を行っており、今後の成果が期待される。(名古屋工業)	

基準7 施設・設備及び学生支援

優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
<p>◎ 経済学部では、学習教育支援室、開放型学習スペース、ALL（アクティブ・ラーニング・ラボ）等を設置し、常駐スタッフを配置するとともに、TAやSAによる学習支援を行っている。（滋賀）</p> <p>◎ 大学運営への学生の参加、学生自身の大学へのアイデンティティづくりとして、「学生自主企画プロジェクト」を設け、予算を確保し、毎年度多数の学生団体等が応募している。（滋賀）</p> <p>◎ 家計の状態が急変した学生を対象とした授業料免除制度等の学内外の一連の学生支援等をパッケージとして策定し、「つづけるくん」と名付け、学生の多様なニーズに柔軟に対応している。（滋賀）</p>		
<p>◎ 24時間利用できる、防犯等にも配慮した自主学習環境を整備している。（滋賀医科）</p> <p>◎ 実験実習支援センターの各種機器を、利用登録により24時間自由に利用できる環境を整備している。（滋賀医科）</p>		
<p>◎ ラーニング・コモンズ、ステューデント・コモンズに加えて、多言語・異文化理解のための共同学習スペースであるグローバル・コモンズ、プレゼンテーションエリア等を備えたアクティブ・ラーニングスペース、DVDや衛星放送を利用したグループ学習が可能なAVコモンズの拡充を行うことにより、自主的学習環境が整備されている。（大阪）</p>		
<p>◎ 就職支援室では、就職指導員（キャリアアドバイザー）による進路個別懇談（対象：学部3年次生及び大学院1年次生全員）を平成26年度より実施し、学生のニーズや必要とされる支援の在り方等を収集・分析している。（奈良教育）</p>		
<p>◎ 松江キャンパスでは、外国語教育センター・ワークステーションを設け、図書、マルチメディア教材、コンピューターを利用して外国語の自主学習ができる環境を整備し、学生に活用されている。（島根）</p> <p>◎ 大学の業務に補助的に従事させる「学内ワークスタディ」を実施することによって、学生の職業意識・職業観を涵養するとともに、経済的事情を抱える学生に対する一層の支援を行っている。（島根）</p> <p>○ 中期目標において「課外活動を充実させ社会人としての基礎力を高めること」を掲げ、「学生の自主的活動プロジェクト」やボランティア活動の支援等を実施している。（島根）</p>		
<p>◎ メディア基盤センターにおいて情報セキュリティマネジメントシステムを構築し、平成20年度にISO/IEC27001の認証を取得するなど、情報セキュリティの質保証に努めている。（山口）</p> <p>◎ 平成24年度に文部科学省「留学生交流拠点整備事業」に採択され、地域経済活性化、街づくり、教育支援や観光振興等に留学生の力を活かす仕組みを構築するための実践的調査研究を行い、支援期間終了後も日本企業文化理解講座の開催、留学生への就職支援を行っている。（山口）</p>		
<p>○ 図書館及び学生会館の改修を行った際に「オーリーブ・スクエア」を開設し、学生同士が自由に学習・交流できる「学習ラウンジ」や、英語のみで会話し、留学生との交流の場としても利用できる「イングリッシュ・カフェ」を設置して活用している。（香川）</p> <p>◎ 学生の自主性、積極性、創造性等を高め、学生生活の活性化・充実に資するとともに、大学教育の改革・改善・活性化を図ることを目的に、学生が行う魅力的・独創的なプロジェクト事業を支援するための学生支援プロジェクト事業「香大生の夢チャレンジプロジェクト」を学長裁量経費によって行っている。（香川）</p>		
<p>◎ 平成24年度から学業成績優秀者奨学金と国際交流協定校派遣支援奨学金からなる「福岡教育大学未来奨学金」を創設し、毎年度20人以上の学生に対して奨学金の給付を行っている。（福岡教育）</p>	<p>◎ 撮影スタジオAVシステム、音声収録編集システム、コンテンツ編集システムを備えた教材作成スタジオについて、今後の活用が期待される。（福岡教育）</p>	
<p>◎ 創造的人材の育成という当該大学の目的に沿った学生グループに対し、既に活動実績があり、国内外の技術系競技会参加や地域貢献活動を目指す「学生プロジェクト」及び将来的に発展が見込まれる萌芽的取組を行う「萌芽的プロジェクト」への資金援助を行うほか、キャンパス内における対象学生グループの活動場所と必要設備確保の支援を実施している。これらのプロジェクト支援は、創造力、チームワーク力、コミュニケーション力、交渉力等、正課学習だけでは得難い高度技術者としての必要な能力を高めることに効果を挙げている。（九州工業）</p>		
<p>◎ 大学独自の予約型奨学金制度（かささぎ奨学金）を整備している。（佐賀）</p> <p>○ 進路不明者をゼロにするなど、学生の就職実態を正確に把握するとともに、就職支援策を強化している。（佐賀）</p>	<p>◎ ラーニング・ポートフォリオを活用したチューターによる学習支援を全学的に導入しているが、学生による入力の一層の向上が期待される。（佐賀）</p>	

基準7 施設・設備及び学生支援

優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
<p>◎ 学生自らが企画し、自主性、創造性、独創性を育み、社会で活躍できる能力を高めることを目的に、平成20年度から学生自主企画支援事業「きらめきコースプロジェクト」を実施しており、音声点字教具の開発と提供、日本人学生との交流を通じた留学生の支援等、毎年度約20事業に400人程度の学生が参加している。（熊本）</p>		
<p>○ 図書館の利用スペースをサイレントスペースとアクティブスペースに分け、アクティブスペースにはラーニング・コモンズ、科目別学習支援ブース、グループ演習室などを配置し、能動的学習環境を提供しているほか、図書館コンシェルジュによる利用者の問合せ、相談等の対応を行っている。（大分） ◎ 学内に設置された「びあROOM」ではインターカーが支援を必要とする学生に対し、相談内容に応じてTAやソーシャルワーカー等の紹介を行っている。（大分）</p>		
<p>◎ 授業アーカイブの作成を継続的に行っており、図書館職員による半自動化作業により翌々日にはウェブページに掲載し、アクセス数も多く学生は掲載直後から復習等に活用している。（奈良先端科学技術大学院）</p>		
<p>◎ 大学施設が、バリアフリー・セーフティ・グリーン・エコロジーの4つのコンセプトを基に建設され、高い耐震性能と高度のバリアフリー機能を有しており、PFI契約により適切な維持管理が行われている。（神奈川県立保健福祉）</p>		<p>◎ 図書購入予算の安定的確保が必要である。（神奈川県立保健福祉）</p>
<p>◎ 平成26年度に学生のボランティア窓口であるボランティア支援室を開設してボランティア活動の窓口を大学として一元化し、大学の特色を反映させた独自プログラムを学生に提供している。（横浜市立） ◎ 就職支援において、卒業（修了）生から支援が受けられるキャリアサポーター制度や就職が内定した学生が下級生を支援するキャリアメンター制度を整備し、キャリアサポーターの登録数は、1,000人を超えている。（横浜市立）</p>		
<p>◎ 図書館（学術情報総合センター）では、図書資料の系統的な収集を行い、検索システムの充実、休日開館等により利便性を確保し、ラーニングコモンズやパソコンのシステム相談室、企画展示等により学生が足を運びやすい環境を整備して、利用頻度の高い施設として活用されている。（大阪市立） ○ 学生支援のワンストップ・サービスに向けて、平成23年9月から各学部・研究科の事務室を統合した学生サポートセンターの運用を開始し、学生・教職員等の意見を積極的にとり入れながら、センターの機能充実に努めている。（大阪市立） ○ 昭和46年以来、学生生活実態調査を3～4年ごとに実施し、学生生活の実態を継続的に把握している。（大阪市立） ◎ 学生生活相談窓口教員を配置するとともに、学生なんでも相談窓口を設置して職員を配置することで、学生サポートネットとして、学生目線に立った学生支援体制を運用している。（大阪市立）</p>		<p>○ 課外活動団体用の部室等の施設が老朽化しており、改善に向けた取組が望まれる。（大阪市立）</p>
<p>◎ 学修達成度自己評価カルテに、毎学期、学習の自己診断を記入させることにより、学生自らの学びの振り返りを促すとともに、これを基にチューターが学習指導を行う、経済情報学部を中心とする取組は、特長のある学習支援となっている。（尾道市立） ◎ 課外活動として、日本文学科と美術学科の学生が共同で、創作掌編集『尾道草紙』や『尾道民話紙芝居』を制作し、自己の研さんに役立てるとともに、地域の保育所、学校、福祉施設等で活用している。（尾道市立）</p>		
<p>◎ 障害のある学生の情報把握を行い、個別のカルテの作成や教職員への手引書の配布等、平成25年度に策定した指針に基づき全学的な支援体制を整備している。（北九州市立）</p>		<p>○ 平成27年度においては北方キャンパスには外国人学生が入居できる寮がないなど、受入学生をサポートする施設・設備が十分でない。（北九州市立）</p>
<p></p>		<p>◎ 附属図書館の閉館時間が早い。（宮崎県立看護） ◎ ハラスメントの防止、相談体制の整備に取り組んでいるが、相談窓口について学生の認知度が低い。（宮崎県立看護）</p>
<p>◎ 学生個人に与える起業ルームを、収容定員30人とほぼ同数の26室設置し、学生の企業活動及び自主学習を支援している。（光産業創成大学院）</p>		

基準7 施設・設備及び学生支援

	優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
平成28年度	<p>○ 図書館や学生会館等のキャンパス内の複数の教育施設・福利厚生施設に、ラーニングコモンズを設置及び増築し、ライブラリーアシスタントを配置するなど、学生の自主的な学習を行う環境を充実させている。(埼玉)</p>		
	<p>◎ 留学生相談室に大学院学生によるチューターを常駐させ、日本語添削、学習補助、PC利用補助等を行っており、有効に活用されている。 ◎ 大学独自の多様な奨学金制度を整備している。(お茶の水女子)</p>		
	<p>◎ 学生1人に対して原則として複数の教員をチューターとして配置し、修学や日常生活に関する指導・助言を行うとともに、学生の履修状況等を学生情報システム「もみじ」によって管理している。チューターとなる教員宛に「チューターの手引き」冊子を作成し、それに基づいて毎年3月にチューター研修会を開催している。 ○ 中央図書館にライティングセンターを設置し、専任教員と専門の研修を受けた大学院学生のチューターが、学生等に対して、日本語・英語ともに分かりやすい文章を作成するためのセミナー等を行っている。 ◎ アクセシビリティリーダー育成プログラムを実施し、多様性をよく理解した上で、アクセシビリティを推進できる人材の育成を積極的に進めている。 ◎ フェニックス奨学金制度(学部学生)及びエクセレント・スチューデント・スカラシップ制度(大学院学生)の拡充に努め、大学独自の奨学金制度を充実させている。(広島)</p>		
	<p>○ 学習支援・生活支援に、学年担当教員、ハラスメント相談員、学生チーム職員等の多くの教職員が協力し、問題の早期発見や解決を図る体制を整えている。 ◎ 大学独自の奨学金制度として、10周年記念奨学金と大学院優秀学生奨学金を実施している。また、東日本大震災の直後には、被災学生に対する経済的支援を目的に、東日本大震災被災者支援金給付制度を設けて実施している。(秋田県立)</p>		
	<p>◎ 成績が一定の基準に達しない学生については、学年担当教員が面談において学習状況や学生生活について聞き取りを実施し、指導を行うなど、教員が学生に対しきめ細やかな学習支援を行っている。(前橋工科)</p>		<p>○ ハラスメント防止に対する組織的な体制の整備が不十分である。(前橋工科)</p>
	<p>◎ 自主的学習の機会を促進するため、図書館のラーニング・コモンズや各キャンパスの自習用スペース等の整備を進めており、それらが学生によって効果的に利用されている。 ◎ ダイバーシティ推進室とダイバーシティ推進委員会が中心となり、障害のある学生のニーズに合わせて支援内容を検討し、組織的に生活支援や学習支援を実施している。また、障害のある学生が支援スタッフとなり、バリアフリーに関する情報提供とともに講演を企画し障害者からの発信を行っている。(首都大学東京)</p>		
	<p>◎ 学科学年を問わず興味関心がある学生が集まって教員の提示した研究に取り組むポケットゼミを多数開講し、学生の学習を支援している。 ◎ 小規模校の特性を活かして、全学部学生に対して、年1回以上面談を行うとともに、学習ポートフォリオを導入するなど手厚い学習支援を行っている。(石川県立)</p>		<p>○ 一部の研究機器等の設備や体育館・部室等の施設については、整備が十分でない面がみられる。(石川県立)</p>
	<p>◎ 自主学習環境として各種工房、演習室、グループ学習室等が整備されており、授業時間外の利用が可能となっている。デザイン学部では、木材加工室、金属加工室、金属工房、プラスチック加工室、ドライモデル室、クレイモデル室、平面工房、及び立体工房が、授業での使用中以外は届出制により自主学習において使用を可能としており、教員の許可を得るなど厳格な使用ルールの下、夜間や休日にも利用されている。(静岡文化芸術)</p>		<p>○ 入構者の把握が困難、設備等の一部に老朽化等が見られるなど防犯面で課題がある。 ◎ 学内の無線LANの整備状況が不十分である。(静岡文化芸術)</p>
			<p>◎ 教育研究のための施設の耐震化が十分になされていない。 ◎ 学生が利用できる端末が十分に整備されているとはいえ、また無線LANが円滑に利用できない箇所が数多く残っている。 ◎ 図書館において教育研究上必要な最新資料は必ずしも十分ではなく、特に電子的オンライン資料の整備は不十分である。(京都府立)</p>
	<p>◎ 様々なアプリケーションを搭載した情報教育パソコンからなる情報教育システムと学内のどこでもつながる無線LANを提供し、学習のための基盤を整備するとともに、履修している授業ごとに授業支援システム、出席管理システム、シラバス、ポートフォリオシステムへワンクリックで移動できる学習・教育支援サイトを構築・運用し、学習支援環境の基盤をICT化し有効に活用している。 ◎ 臨床心理士によるメール相談、カウンセラーによる対面方式の学生相談、アクセスセンターでの社会福祉士・精神保健福祉士による障害学生支援の相談等各種相談窓口の充実に加え、教員が学生の修学をはじめ学生生活全般の相談・指導を担う学生アドバイザー制度の運用等、学生の相談体制の整備・充実を図っている。(大阪府立)</p>	<p>○ ポートフォリオシステムの活用に関し、学生・教員ともに入力率が低くとどまっているものの、学習・教育支援サイトを通じて可視化される学習成果の情報は、学生が授業を振り返る上で利用されており、今後の成果が期待される。(大阪府立)</p>	

基準7 施設・設備及び学生支援

優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
	<p>◎ ボランティアステーションを拠点とする学生リーダーグループと学生支援室長とによる学生生活充実に向けた意見交換が行われるなど、学生の自主的な活動を適切に支援するだけでなく、学生が積極的に大学の運営に参画できる体制となっており、今後、学生が大学の運営に協力することによる成果が期待される。（岡山県立）</p>	<p>◎ 図書館において、最新の資料が不足している。（岡山県立）</p>
<p>◎ 教育支援センターに4人の特任教員を置いて、学生が取り組む教育・保育実習や課外での学校・保育所における実地体験活動に関する相談、助言、支援を行っている。（福山市立）</p>		
<p>◎ 相互実習室や臨床シミュレーションシステム等の実習を支援する施設が充実している。 ◎ 歯科公衆衛生、障害者福祉を中心としたボランティア活動を継続的に行う「むしばくらぶ」は、多数の学生が加入し、歯科医師と歯科衛生士としてどのように活動していくべきかの自覚を育てるとともに、地域に貢献する課外活動として際立った存在となっている。（九州歯科）</p>		
<p>◎ 平成26年度に新築、竣工した現在の図書館の建物は明るく躍動感のある空間として、公益財団法人日本デザイン振興会グッドデザイン賞2015を受賞している。 ◎ AA（アカデミック・アドバイザー）システムを構築し、面談週間を設けて学生一人一人と面談を実施して、学習指導を行い、学生からの相談に対応している。 ◎ 交換留学（派遣及び受入）、海外語学研修、海外体験学習等に対して、日本学生支援機構奨学金（海外留学支援制度）を獲得して、派遣する学生（約70%）へ支援を実施しているほか、日本学生支援機構からの支援がない学生には学内奨励金を交付し、希望した学生に対しては、全員に援助を行っている。（福岡女子）</p>	<p>◎ 1年次生に対しては全寮制を実施し、国際交流を深めたり、グループ学習を行うことができる学生寮（国際学友寮なでしこ）が整備されており、今後、学生からの意見を反映させ、さらに多様性や利便性等が向上されることが期待される。（福岡女子）</p>	<p>◎ 図書館の開館時間が短い。（福岡女子）</p>